

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370785

研究課題名(和文) 近世村落における地域情報の調査・記録に関する比較研究

研究課題名(英文) Comparative study about an investigation, the record of the regional information in the early modern village

研究代表者

東昇(HIGASHI, Noboru)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：00416562

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：近世村落の行政のあり方を、庄屋日記に焦点をあて、地域情報という視点から考察した。肥後国高浜村の庄屋上田家文書を中心に、山城国上津屋村伊佐家文書、対馬藩政文書の毎日記を対象とした。結果、近世の村は18世紀末以降、船頭等の情報を収集し、天然痘・異国船来航への危機に対応し行政能力を向上させた。その能力は、村役人が日記を中心として情報化を進め、地域情報として収集・活用・管理し、行政を実施したことである。近世日本の村は、地域情報の活用により村の安全を維持し、村全体の向上を目標としていた。また近世の領主にとっても、村が収集した情報の重要性は次第に増し、それに依存する「情報請」の状態を構築した。

研究成果の概要(英文)：I discuss actual administration of a village in the early modern period with a focus on the diaries of the village headman from a standpoint of regional information. I examined actual situations and significance of the written materials of the Ueda family, as recorded by the village headman of Takahama Village. In addition, I studied the Kouzuya Village Isa document, Tsushima clan documents.

Based on the analysis in this report, it was found that information about boatmen was collected to address detection of smallpox, visits of foreign ships in the 18th century or later, and this improved the administrative ability of the village. The abilities of village officers were raised to promote informatization of diaries and other materials, to collect/use/manage the information as regional information, and to carry out village administration. Villages in the early modern period aimed to maintain the safety of the village by using regional information and to improve the overall village.

研究分野：日本史

キーワード：近世史 日記 地域情報 天草 対馬

1. 研究開始当初の背景

(1) 長期継続する歴史史料が、どのように形成されていくのか。近世の文書管理史研究では、史料のライフサイクル論として分析が進められてきた。なかでも幕府勘定所や熊本藩等の行政に関する史料から、文書の作成、受け渡し、保管に関する過程や、藩政改革などの影響で文書様式や保管方法が変化することが明らかになった(福田千鶴「江戸幕府勘定所と代官所の史料空間」2000、安藤正人「松江藩御奉行所「民事訴訟文書」の史料学的研究」2000、吉村豊雄「近世地方行政における藩庁部局の稟議制と農村社会」2008)。

このライフサイクル論の前段階といえる、文書にどのような情報が記録されていくのか。この情報を「地域情報」と位置づけ、これまで庄屋日記を利用して分析を進め、文化期の肥後国天草郡高浜村の課題であった漁業権獲得等に関して、どのような地域情報を日記に蓄積し、活用したかを解明した。

(2) 近世の情報に関する研究では、岩田みゆきが名主は領主と村民間で村の政治的・経済的・宗教的な「村方情報」を収集・維持・管理・蓄積・操作できる立場にあったとする(『幕末の情報と社会変革』2001)。また高部淑子は、商人や都市の情報分析から「情報活動」とは、情報の作成・伝達・受容・記録など情報に関わるすべての活動と定義する(「一九世紀後半の情報活動と地域社会」1994)。

(3) 村方文書と村の行政に関する研究において、久留島浩は、「行政村請」能力として18世紀後半に一般化する村方文書の引継・管理があり、村役人の作成した文書が村にとって公共的意味を有するという認識が明確化したと主張する。さらに日記は名主など村役人の行政的職務遂行に必要なことを子孫に残したと指摘する(「百姓と村の変質」1995)。これらの点は対象とする高浜村において、村方騒動後に、文書量が増加したこと、継続的に日記を作成し地域情報を記録しはじめたことと同様の動きであると考えられる。

2. 研究の目的

(1) 地域情報調査・記録の形成過程の分析

上田宜珍日記に記される情報量は、日記開始初期から増大し、中期には最大2.6倍の量となる。初期と中期を比較することにより、地域情報の記録内容の違いを分析する。この初期の日記を翻刻データ化し、日記に地域情報を記すようになった理由や背景などを、行政・運営との関連から明らかにする。また同時期の隣村今富村、村外へ出勤した際の日記もあり、庄屋不在の場合の記録、村日記への記録の統合など日記の作成過程を分析する。そしてこのような地域情報を記録する方法の形成、継承について考察する。これらは庄屋の行政における、地域情報の記録方法、そ

の形成過程、意義、行政能力の向上を解明するという視点が特色である。

(2) 村の行政における地域情報の蓄積、活用の地域間比較

高浜村の場合、文化期は長崎へのレザノフ来航以降、対外危機が顕在化し、村全体で異国船に関する地域情報が蓄積された。幕領という共通の行政のもとで、それぞれの村の課題や脅威(火事、疫病)などへの具体的な村の対策から、日記や村方文書に蓄積され活用する地域情報の特徴を明らかにする。また日記における地域情報の調査、記録という視点を、領主側から考察するため、長期間、詳細な内容を記す対馬藩の毎日記等を対象として分析する。

3. 研究の方法

(1) 対象史料 肥後国天草郡高浜村、幕府領庄屋上田家文書、上田陶石合資会社(熊本県天草市)、九州大学附属図書館(福岡県福岡市)所蔵、約6500点、庄屋日記は111点(寛政期~明治2年)、山城国久世郡上津屋村、幕府領庄屋伊佐家文書(京都府八幡市)約2640点、庄屋日記60点(文化期~明治30年)。

(2) 研究方法

- ・上田家日記未翻刻分の翻刻・データ化
- ・上田家文書の内容調査、撮影 上田陶石合資会社
- ・檜垣文庫内上田家文書の内容調査、撮影九州大学附属図書館
- ・伊佐家文書の内容調査、撮影 伊佐家・京都府立総合資料館
- ・宗家文庫の内容調査、撮影 長崎県立対馬歴史民俗資料館
- ・「地域情報・比較史料学研究会」で研究報告。
- ・調査研究報告書の刊行 研究成果をもとに、日記の史料分析を主とした調査研究報告書を刊行し、広く地域住民、研究者に成果を公開。

4. 研究成果

(1) 史料調査、文書の翻刻・データ化

上田家資料館所蔵「上田家文書」について、寛政9、12年、文化4、5年上田宜珍日記、文政6年上田信親日記、上田宜珍の著書「天草備考」「天草風土考」、書籍「練兵日記」「備藩典刑」等の写真撮影を行った。また「練兵日記」の諸本について、久留米市立中央図書館所蔵の有馬文庫の該当資料を調査した。上田家日記については、これまで翻刻・データ化が完了した期間(寛政5~文化15年)前後の翻刻・データ化を進めた。その結果、研究対象の上田宜珍が庄屋となった寛政2年4月~4年12月の2年8ヶ月分の日記開始初期、及び次代上田信親庄屋期の文政5、7年の2年分の翻刻・データ化を実施した。

上津屋村伊佐家文書について、京都府立総合資料館所蔵のマイクロフィルムの調査を行い、庄屋伊佐貞利の嘉永7年・安政2～5年極月の5年分を翻刻・データ化した。

長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵「宗家文庫」の対馬藩各部署の毎日記(文化9年、享保2年)、表書札方毎日記・奥書札方毎日記(いずれも文化8年)、対馬国の各村の地域情報を記録した明和9年「公儀役人廻村答書」、文久元年「八郷村々惣出来高等調帳」を調査・撮影を行った。

(2) 共同研究者との研究会 「地域情報・比較史料学研究会」を4回開催。高浜村上田家文書の調査、研究方法、「近世の庄屋日記と地域情報 天草郡高浜村上田宜珍の記録」、『近世の村と地域情報』、天草上田家日記の分析等、上田家日記の地域情報に関する研究成果について報告した。また「明治期「郡村誌」の分析と活用 - 山城国の地域情報 - 」は、研究開始当初に予期していなかった点である。近世村落の地域情報を記録した明治10年代、内務省の指示により全国府県単位で実施された「郡村誌」の調査・分析成果である。今回対象地とする上津屋村を含む山城国8郡の「郡村誌」(京都府立総合資料館所蔵)が現存し、山城国の「郡村誌」について、地域情報の調査、記録の実態について研究成果の報告や今後の調査方法を検討した。

(3) 論文・図書

地域情報調査・記録の形成過程の分析

村における地域情報の収集・発信・伝達について、庄屋・船頭の異国船漂流、ヲロシア一件に関する情報を中心に分析した論文「近世後期庄屋日記にみる地域情報の収集・伝達 肥後国天草郡上田家と船頭情報」。日記に記録された情報の特徴を、日記の記事の内容と記録される文書、行政・運営過程の記録、日常の記録から分析し、学会発表「近世の庄屋日記と地域情報 - 天草郡高浜村上田宜珍の記録 - 」を報告した。

そしてこれまでの研究成果を、近世の村の行政・運営のあり方について、庄屋日記に焦点をあて、地域情報という視点から考察し、調査研究報告書として、図書『近世の村と地域情報』にまとめた。本書は、第一部「地域情報と日記・文書」、第二部「庄屋日記の地域情報」とし、序章・終章を含めて8章構成である。

本書では、行政・運営を行う上での判断材料、方針を考える根拠となる情報に着目した。それは情報の種類・特徴、収集、活用、管理、情報量と行政との関係、情報群と領主支配の関係、村役人の行政、危機管理の実態の解明である。分析対象の庄屋日記の特徴は、大量の記述があり、統計処理が可能な点である。この史料に記録された、村という地域の各種情報をまとめる視点が地域

情報である。

結論として天草郡では18世紀末以降、船頭・漁民・仁才の情報を収集し、天草崩れ・天然痘・異国船来航への危機に対応したことが、村の行政能力を向上させた。その能力は、村役人が日記を中心として情報化を進め、地域情報として収集・活用・管理し、行政を実施したことである。近世日本の村は、地域情報の活用により村の安全を維持し、村全体の向上を目標としていた。また近世の領主にとっても、村が収集した情報の重要性は次第に増し、それに依存する「情報請」の状態を構築した。

村の行政における地域情報の蓄積、活用の地域間比較

庄屋日記の内容から地域情報の蓄積の事例として分析した論文「近世後期肥後国天草郡における庄屋をめぐる書籍の貸借と学問・行政」、また上田宜珍が庄屋日記他、蓄積した地域情報を天草郡の地誌、歴史書として集成・編纂し知識としていく過程を分析した図書 の論文「地域情報の集成と知識の伝播 - 書籍による人のつながり」がある。また地域間比較として、対馬藩の「毎日記」については、朝鮮通信使の易地聘礼が行われた翌年、藩主交代があった文化9年の各部署(表書札・奥書札・支配・与頭・寺社方)の比較を行い、記録の引用・書き分けが、職務とどのように関係したかを分析した論文「対馬藩における文化九年「毎日記」の引用・書き分けと職務」をまとめた。

今後の展望として、分析を進めている伊佐家日記は、同じ庄屋日記でも記載内容が少なく、上田家日記と比較して精粗の差が大きい。しかし伊佐家においては、幕末・明治期の上津屋村・京都における重要事件・事項をまとめた「歴代記」を編纂しており、庄屋日記との比較分析が必要である。

また対馬藩の「毎日記」の事例研究から、各部署が分担して詳細な情報を記録していたことが判明した。これは領主と村の日記の共通性であり、両者ともに地域情報として過程を記すという特徴があるなど、今後の研究課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

東昇、近世後期肥後国天草郡における庄屋をめぐる書籍の貸借と学問・行政、京都府立大学学術報告(人文)、査読無、67、2015、117-132頁

東昇、対馬藩における文化九年「毎日記」の引用・書き分けと職務、国文学研究資料館編『幕藩政アーカイブズの総合的研究』、思文閣出版、査読無、2015、225-246頁

東 昇、近世後期庄屋日記にみる地域情報
の収集・伝達 肥後国天草郡上田家と
船頭情報、京都府立大学学術報告(人
文)、査読無、65、2013、105-124 頁

〔学会発表〕(計1件)

東 昇、近世の庄屋日記と地域情報 - 天
草郡高浜村上田宜珍の記録 -、日本史研
究会例会、2013年12月4日、機関誌会
館(京都府京都市)

〔図書〕(計1件)

東 昇、近世の村と地域情報、吉川弘文
館、2016、全258頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東 昇 (HIGASHI, Noboru)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：00416562